

令和 8 年度第 1 回山鹿創生塾

令和 8 年度山鹿創生塾では「ライター体験」と題して、山鹿市の中学生高校生を対象としたワークショップを開催しています。

8 月 3 日（月）に、第 1 回山鹿創生塾を開催しました。初回は山鹿市内の学生 26 名（中学生 4 名、高校生 22 名）の参加があり、「記事を企画する」をテーマに記事の書き方を学び、山鹿の地域資源を再発見してもらうワークショップを行いました。

記事の書き方は「Formosa 九州※」編集部の舞永淳子さんを講師に、基本的な記事の書き方を学びました。誌面をつくる流れについては、①企画を立てる②取材先を選定する③取材許可をとる④取材する⑤原稿を書くといった、5 段階に分けて進めていく中で、企画を立てる際にターゲットを明確化し、そのターゲットが興味をもつ企画とはなにか、一番必要としている情報は何かを事前リサーチの上、よく考えて企画を立てることの大切さについて説明がありました。

今回の山鹿創生塾では、Formosa 九州 12 月号に掲載する記事を書いてみることをゴールにしているため、Formosa 九州 11 月号の高千穂特集の記事を用いて具体的な記事の企画について教えてもらいました。Formosa 九州のターゲットである台湾の方に興味をもってもらうためにはどんなテーマがいいのか、企画した方向性が合っているかなど、なぜ高千穂を特集したかの意味も含めて具体的な企画の考え方を教えてもらいました。

後半は、「山鹿の〇〇といえば」をテーマに、山鹿の魅力を再発見するワークショップを実施しました。4～5 人のグループに分かれ、それぞれ「スポット」「グルメ」「歴史」「イベントまつり体験」「お土産」をキーワードとして、思いつくものを書き出して模造紙にまとめてもらいました。書き出していく中で、地元なのに意外と知らないことが多いことや、知っていることに偏りがあることに気付くことができました。最後はグループごとに発表してもらい、山鹿の魅力について改めて知るきっかけとなりました。

最後に各個人で振り返りを行いました。「記事を作成するための過程が多いと感じた。」「下準備の大切さを知ることができた」「取材に行くことが楽しみになった」「自分の知っていることと他の人が知っていることが違って、同じ山鹿が地元でもここまで違うことに驚いた」「知らない人との交流は緊張したけど楽しかった」など感想が寄せられました。

※「Formosa（フォルモサ）九州」とは、熊本や九州に住む台湾人の方向けに 2024 年に創刊した生活情報誌で、観光やグルメなどを収載し、活字は全て台湾で使われている中国語（繁体字）。隔月で 3 万部を発行し、無料配布している。